

陳 情 文 書 表

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第37号（5. 11. 22） 今後の幼児教育・保育における市立幼稚園について（方針）案について、地元の声をよく聞いた上での検討を求める陳情</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<p>「今後の幼児教育・保育における市立幼稚園について（方針）」案にある「再編対象」幼稚園について、「今後の園児数の推移と地域の状況を踏まえて再編を検討」に変更する等、地元の声をよく聞いた上で検討すること。</p>
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市北区 川西 直樹 その他署名者あり（申告数6名）</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>教育こども委員会</p>

2023年11月22日

神戸市議会議長 様

〔陳情者〕住所 神戸市北区

電話番号

氏名 川西 直樹

「今後の幼児教育・保育における市立幼稚園について（方針）」案について、
地元の声をよく聞いた上での検討を求める陳情

1. 陳情趣旨

(1) 背景

市立幼稚園と私立幼稚園の保育料は、同額化を経て無償化され、「送迎バス」等の実費相当額以外の保育にかかる保護者負担はなくなり、市立幼稚園の園児減少につながっています。

その一方で、市立幼稚園は“ゆたかな幼児教育”のさらなる充実に向けて、3年保育の実施をめざすことや、地域の住宅開発の状況によっては今後の園児数変動の可能性があり、地域の子育て拠点としての役割を担う等、期待も大きくなっています。

今回の方針案については、北区や西区など面積が広大な地域に再編対象の幼稚園が存在しており、人口動態や園児数等を根拠とした再編対象は、市立幼稚園の通園空白地帯が生まれることで、市民サービスの低下につながる懸念から、慎重な議論が必要です。

欧米諸国などの先進国では、国家として幼児教育の重要性を認識し、就学前教育を公が担うなど、その責任を果たす意思が現れています。我が国でも今後の幼児教育のさらなる充実をめざすには、市立幼稚園がその責務を果たすために存在しているものと認識しています。

(2) 理由

市立幼稚園は、長年培ってきた幼児教育のノウハウや創意工夫を生かし、幼児の心身の発達に即応した教育課程の編成（農業体験等）や指導方法、教材作成等の幼児教育を実践している貴重な社会資源です。

現在、子育て世帯のニーズが高い「3年保育」を検討するにあたり、教室の確保が可能であり、園児確保にむけた取り組みによる存続が可能な幼稚園もあります。

例えば、からと幼稚園は、唐櫃小学校区で唯一の幼稚園であり、近隣の私立幼稚園数も少なく、人口減少がさらに進んだ場合、民間の園は経営が困難になり、幼児教育の場が本地域から消滅する可能性も考えられます。地域の中においては、幼保連携や幼小連携、中学校や高等学校等との交流が年間を通して計画的に取り入れられており、教諭や管理員の方も含め、地域住民が子どもに温かく声をかけてくださるので、自然と子どもたちも地域で育つ子どもとして誇りを持つことができます。

今後、市営住宅の整備や、駅前再開発等で人口が増えることが予想され、育児不安や虐待の未然防止のために地域子育て支援のニーズが高まることを踏まえて、地域の貴重な社会資源である市立幼稚園の今後については、地域の声を十分に聞く必要があると考えます。よって、以下の事項について陳情します。

2. 陳情事項

「今後の幼児教育・保育における市立幼稚園について（方針）」案にある「再編対象」幼稚園について、「今後の園児数の推移と地域の状況を踏まえて再編を検討」に変更する等、地元の声をよく聞いた上で検討してください。

以上